

わがまちの教育(教育委員会)

よりよい教育をめざし、市内5校の研究発表

市内の学校では、文部科学省や県教育委員会などから多くの研究指定を受け、研究を進めています。本年度はそのうち5校が研究発表会を行いました。その主な研究内容をお知らせします。

学ぶ楽しさを育てる授業の創造をめざし

文科省指定【山田小学校】

児童一人ひとりの確かな学力の定着をめざし、「学ぶ楽しさを育てる授業の創造」に取り組んでいます。

具体的には、算数科や国語科において、児童の学習課題の克服や学習への関心・意欲の向上を目的とした少人数授業や課題別・コース別授業を展開しています。

本年度は、三回の研究授業を市内の教職員や地域の方々に公開しました。「先生数名による指導は行き届いており、児童にとっては分かりやすい授業になると思う」「すべての児童が取り組める、やりたい、やる

うと思える教材を準備することの大切さを改めて感じました」等の感想をいただきました。

また、漢字検定方式の「漢字チャレンジ」にも全校で取り組んでいます。他にも、「ワクワク算数部屋」には、多くの教具を設置し、図形に対する感覚や算数への興味・関心を高めたりしています。

本年度の到達度学力検査では、国語・算数ともに、全学年で全国と同程度以上の結果となっています。しかし、学力の定着・向上には、家庭の協力が必要

不可欠です。今後は、「自学自習の手引きや、チャレンジ学力アップ」等を利用し、家庭との連携を図っていきたくと考えています。

伝え合う力を養う

文科省指定【片地小学校】

平成十四年度より三年間、算数を中心に研究してきました。「算数が好き」と答える子どもが増加するなど一定の成果があげられました。一方で、児童の学び合

いの学習に弱さがあり、思いや考えを文章や自分の言葉で伝えきれないのではないだろうかという課題が浮かび上がってきました。そこで昨年度より、これ

までの研究の成果を土台とし、国語科では言語活動の基礎・基本を、道徳では教え合う、学び合うことのできる心情面の育成を図る研究に取り組んできました。

新しいタイプの小中連携教育とは小学校と中学校の教育を連続性の視点から教育活動を再構築していく実践です。同一校舎内で小学生が生活しているという長所を生かしながら、研究を進めました。特徴的な成果は次のとおりです。

小中教職員が合同で職員



外部講師を招いての授業 (片地小)

新しいタイプの小中連携教育

県教委指定【繁藤小中学校】

十一月三十日には研究発表会を行い、市内はもちろん、遠くは宿毛市から参加してくれた先生もいました。さらには多くの保護者の皆さま

会や研究推進を進めることで、小中の系統的な指導が確立されるとともに、子ども観の共通確認が図れ、繁藤校の子どもとして見守る態勢づくりができました。

国語科、算数・数学科を中心に九年間を見通した学習のねらいや目標をもった指導ができ、個人カルテを

んが参観してくれました。全学級で授業を公開しました。授業の中では、自分なりに考え、思いや意見を伝えようとする姿がどの学級の子どもにも見られました。何よりも友だちの意見に真剣に耳を傾ける姿に成長の跡をみました。

しかし、授業の場面では「伝え合う」ことができつつありますが、日常の場面で「伝え合う」ことができているとはまだまだ言えません。この力が日常生活に生かせるようにしていけるよう、保護者・地域の方々との連携をとりながら、研究実践を進めていきたいと思っています。

活用した一貫した教育が展開できました。

「国際理解教育」

「人権福祉教育」

「特別活動」の三

本柱について、体験活動を通してよりたくましく生きる力や優しく豊かな心の育成が図られてきています。

今後これらの成果を基盤にして、きめ細かく子どもを見守る教育を進めていきます。

児童の興味や関心を高める授業の工夫を柱に

県教委指定「楠目小学校」

本年度は、研究テーマを「ことばと体験活動がはぐくむ豊かな学び」とし、教員の授業力の向上と児童の基礎・基本を定着させる国語科の授業のあり方について研究を進めてきました。児童の興味や関心を高める授業展開の工夫を柱に、次のような重点的な取り組みを行ってきました。

本年度は、研究テーマを「ことばと体験活動がはぐくむ豊かな学び」とし、教員の授業力の向上と児童の基礎・基本を定着させる国語科の授業のあり方について研究を進めてきました。児童の興味や関心を高める授業展開の工夫を柱に、次のような重点的な取り組みを行ってきました。



ALT（外国語指導助手）との国際交流授業（繁藤小）

の支援を得ながら、子どもたちにとって安全で楽しい授業づくりに取り組む。

以上のような取り組みを通して、児童は、教師の発問や友だちの意見をしっかりと聞き取る姿勢や自分

舟入川の「水車」が学校・地域のシンボルに

エネルギー環境教育情報センター指定「舟入小学校」

平成十六年度からエネルギー教育実践校として研究に取り組んできました。児童に実験や体験を通して興味関心をもたせ、エネルギーについて児童も教職員も楽しみながら自由な発想で学習を進めていこうと取り組んできています。

このエネルギー教育の研

の考えを自分なりの表現で友だちに伝えようとする姿が見られるようになってきています。そのような子どもたちの変容の姿が見られはじめたことが、国語科を中心とする更なる授業改善への糧ともなっています。

究を進めていく中で、子どもたちのためにと保護者や地域の方々から多くの支援をいただきました。特に本校のシンボルとなってきた

学校前の舟入川に設置した「水車」についてはたくさんの方々の協力をいただきました。児童はこの水車を活用したさまざまなアイデアを出し、それぞれの学年に応じた学習につなげています。また、先日は坂本鉄

工所、商工会工業部やライオンズクラブの協力で新たな



舟入川前に設置された水車



ビーバーの巣を作ってみよう（楠目小）

これからの研究実践に対して、昨年度は片地小学校が「教育優秀校」を、今年度は山田小学校が「坂本教育賞」、楠目小学校と繁藤小中学校が「教育優秀校」、舟入小学校が、「エネルギー教育優秀校」の表彰をそれぞれ受けました。

これからの研究実践に対して、昨年度は片地小学校が「教育優秀校」を、今年度は山田小学校が「坂本教育賞」、楠目小学校と繁藤小中学校が「教育優秀校」、舟入小学校が、「エネルギー教育優秀校」の表彰をそれぞれ受けました。